**リオデジャネイロ管内情勢月間報告（2014年1月）**

**１．政治/社会/治安（リオデジャネイロ州）**

（１）政治

リオ州におけるPT、PMDBの連立解消 2013/1/27

２７日、PTはリオ州政府の運営から外れることが決定された。これによりカルロス・ミンク前リオ州環境局長官（PT）及びザケエウ・テイシェイラ前リオ州社会福祉局長官（PT）が辞任、リオ州におけるPT、PMDBの連立は事実上解消された。PTは与党PMDBの連立政党としてリオ州政府の運営に参加していたが、PTリオ支部が独自候補としてリンジベルギ・ファリアス上院議員（PT）を、PMDBがセルジオ・カブラル州知事（PMDB）の後継候補としてペザォン副知事（PMDB）をそれぞれ支持する状況で、選挙協力の折り合いがつかず、連立解消は時間の問題とみられていた。

２０１３年度リオ市議会、提出法案の１１パーセントが施行 2013/1/9

２０１３年、市議会議員によって提出された９８４の法案のうち審議されるまでに至ったたものは１７７（１８％）のみで、議会を通過し施行されたものは１１３（１１％）であった。年に３ヶ月の休会期間が議会運営の効率を低下させているとの指摘がある。

（２）治安

犯罪率の増加 2014/1/29

昨年の８～１０月に発生した殺人事件数は１１６９件と、２０１２年の同時期（９３９件）に比べ24.5％増加した。その他、公共交通機関における窃盗、強盗（67.7%、2012年８月と13年８月を比較）、車両の窃盗（50.1%）、携帯の窃盗（54.2%）、路上強盗（38.2%）と、全体的な犯罪率も上昇している。治安研究所（ISP: Instituto de Segurança Pública）調べ。

大規模イベント部隊(BPGE: Batalhão de Policiamento em Grandes Eventos)の発足 2014/1/7

ジョゼ・マリアーノ公安局長は、大規模イベントのデモ等に対応する部隊（BPGE）の発足を発表した。約５００人の警官で構成される。他、サッカーの試合やその他スポーツ・文化イベントでの警備も担当する。

自転車利用の増加、自転車強盗も顕著に 2014/1/7

リオ市では自転車の利用できる道路が３０５キロメートル整備されており、これはブラジルで最も長い（ラテンアメリカでは２番目、１番はコロンビアのボゴタ）。自転車を通勤や趣味に用いる利用者は増えており、高額なものも多く売れるようになった。市は２０１６年までに４５０キロメートルの自転車道を整備することを目標に掲げている。しかし、自転車の利用が一般的になるにつれ、利用者と自転車を狙った路上強盗の事例が多く聞かれるようになった。中には強引に引き倒された結果重傷を負うなど、危険な事例もあり、自転車の利用には注意が必要である。

（３）その他

水不足・カブラル州知事が増資を発表 2014/1/8

カブラル州知事は７日、２億レアルをリオの下水道の整備に投じる旨発表した。これにより夏期の水不足に悩む州西部の状況の改善を目指す。同地域では現在４カ所合計３千万リットルの貯水池を建設中であり、これにより６０万人の住民に水を供給することになるという。工期は２０１５年の８月までの予定。また同知事はサンゴンサーロ・バイシャーダ・フルミネンセ・イタボライでの開発のため、リオ州上下水道公社(Cedae)協同による官民パートナーシップ・プログラム（PPP）の成立を目指すとしている。

Supervia脱線事故 2014/1/22

２２日午前５時１５分、サンクリストヴァン駅付近においてスペルヴィア（Supervia）鉄道の車両が脱線し、線路内の電柱を破壊、全線で運行が停止するという事故が起こった。通常運行に戻るまでには１３時間かかっている。これをきっかけに同鉄道会社のずさんな運行管理や情報発信の不備、冷房や窓のない劣悪な環境、車両の整備不良及び老朽化などが問題となり、メディアにおいて連日取り上げられることとなった。

リオ大司教、カトリック枢機卿に任命 2014/1/12

ローマ・カトリック教会のフランシスコ法王は12日、リオデジャネイロのオラニ・テンペスタ大司教を含む、新たな19人の枢機卿の任命を発表した。任命式は2月22日の予定。

マルタ・ロシャ文民警察局長（辞任）→フェルナンド・ヴェローゾ〃（新任） 2014/1/31

政治家としての活動を開始するため、１月３１日辞任した。辞任後の所属政党はPSD。後任はフェルナンド・ヴェローゾ警部。

カルロス・ミンク環境局長官（PT）（辞任）→インディオ・ダ・コスタ〃（新任） 2014/1/31

PT、PMDBのリオ州内における連立解消を受けて１月３１日辞任、後任はインディオ・ダ・コスタPSDリオ支部長。

ザクエウ・テイシェイラ社会福祉局長官（PT）（辞任）ペドロ・フェルナンデス〃（新任） 2014/1/31

PT、PMDBのリオ州内における連立解消を受けて１月３１日辞任、後任はペドロ・フェルナンデス上院議員（連帯党: Solidariedade）。

**２．経済**

（１）経済一般

2013年のミナス州の輸出額(速報値)は過去2番目で前年比0.6%増の334億ドル 2014/1/8

本調査はミナス州政府によるもの。輸出額が多かったのは、鉄鉱石（前年比11.5%増の161億ドル。全体の48.4%）、そしてコーヒー（同18.5%増の31億ドル。全体の9.3%）であった。なお、特に増加した品目は、自動車（1～11月までで前年同期比78.4%増の約5億ドル。ブラジル全体の9.9%）、薬品（1～11月までで同8.8%増の約4億ドル。ブラジル全体の27%）等であった。ブラジルの総輸出額（前年比0.2%減）に占めるミナス州の割合は13.8%であった。また、輸入額は前年比2.4%増の123億ドルであった。品目別では、自動車（1～11月までで前年同期比4.7%増の約14億ドル）が最も多かった。一方、肥料は同19.4%減であった。なお、ブラジルの総輸入額に占めるミナス州の割合は5.2%であった。2013年、ミナス州の貿易収支は211億ドルの黒字であった（注：ブラジル全体では同86.8%減の25.6億ドル）。

2013年のリオ州の予算、7億5,940万レアルの内、上下水道整備等の保健衛生分野で使用されたのは16.8%に相当する1億2,760万レアルのみ 　2014/1/9

本調査はリオ州によるもの。但し、州政府によると、連邦政府からの資金を含めると、昨年、同分野では3億2,700万レアルが使用された。なお、オリンピック開催まで後2年となったが、開催の条件であった、グアナバラ湾とジャカレパグア湖の浄化は遅々として進んでいない。

2013年のミナス州ベロオロリゾンテ市のインフレ率は、生活費の高騰により、6.14%へ上昇

2014/1/9

本調査はミナス州によるもの。なお、2012年は5.75%であった。また、2013年12月の一般消費者物価指数（IPCA）は、同月としては2005年以降最も高い0.87%であった。価格が特に上昇したのは飲料（12.2%）と外食（11.6%）あった。

12月の一般消費者物価指数（IPCA）、リオデジャネイロ（リオ）大都市圏は前月比＋1.16%、ベロオリゾンテ（ベロ）大都市圏は同＋0.80%　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　　　2014/1/10

本調査はブラジル地理統計院（IBGE）によるもの。調査が行なわれた主要11大都市圏の平均は同＋0.92%であった。11月は、リオ大都市圏が前月比＋0.75%、ベロ大都市圏が同＋0.53%であった。また、12月までの過去12か月のIPCAは、リオ大都市圏が＋6.16%（11月までの過去12か月は＋6.29%）、ベロ大都市圏が＋5.75%（同＋5.46%）、11大都市圏の平均が＋5.91%（同＋5.77%）であった。

11月の鉱工業生産指数は3州共、前年同月比でマイナス 　　2014/1/10

本調査はブラジル地理統計院（IBGE）によるもの。リオ州の11月の鉱工業生産指数は、前年同月比3.1%減、前月比0.2%増、1～11月の累計は前年同期比0.6%増、過去12か月間では同0.5%増であった。ミナス州は、前年同月比0.6%減、前月比0.3%増、1～11月の累計は前年同期比0.8%減、過去12か月間では同0.4%減であった。また、エスピリトサント州は、前年同月比0.9%減、前月比0.1増、1～11月の累計は前年同期比6.9%減（調査の行なわれた14州・地域中最低）、過去12か月間では同7.1%減（調査の行なわれた14州・地域中最低）であった。なお、14州・地域の平均は、前年同月比0.4%増、前月比0.2%減、1～11月の累計は前年同期比1.4%増、過去12か月間では同1.1%増であった。

12月の失業率は、リオ大都市圏が3.7%で、ベロ大都市圏は3.4%　　　　　　　　　　　　　2014/1/30

　 本調査はブラジル地理統計院（IBGE）によるもの。主要6大都市圏の平均は4.3%であった。11月は、リオ大都市圏が3.8%、ベロ大都市圏が3.9%で、主要6大都市圏の平均は4.6%であった。12月のリオ大都市圏、ベロ大都市圏と主要6大都市圏の平均の数値は、同月としては、2002年に統計が開始されて以来、最も低かった。また、2013年通年は、リオ大都市圏が4.5%、ベロ大都市圏が4.2%、主要6大都市圏の平均が5.4%で、全て、2002年に統計が開始されて以来、最も低かった。

（２）石油・天然ガス・石油化学・バイオ燃料

ペトロブラス、ユーロ及びポンド建てで51億ドルを調達　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　2014/1/8

これは満期2018年～2034年の債権の発行によるものであった。但し、2013年10月にムーディーズがペトロブラスのランクを下げたことから、金利は前回（2012年9月）より高くせざるを得なかった。同社によると、この資金はプレサル油田等を開発するために利用される予定である。なお、市場関係者は、同社は今年計250億ドルを調達する必要があると考えている。

伯ＢＧ、リオ連邦大学大学院工学部研究所（UFRJ-Coppe）の研究室に投資 2014/1/16

伯ＢＧは、UFRJ-Coppeの中に新しい研究室を設置し、既に成熟期に入った深海油田における原油採掘量を増加させるための技術開発を行なうことを決定した。投資額は3,500万レアルである。例えば、リブラ鉱区で油井1本当たりの生産量が1%上がれば、少なくとも8,000万バレルを増産することが可能となる。研究は5年間行なわれる予定で、UFRJ-Coppeのポスドク（博士研究員）・大学院生が年に6人、この分野で実績を持つスコットランドの大学へ留学し、研究を行なう予定である。

ペトロブラス、16年振りに希望退職者の募集を開始 2014/1/18

対象は55才以上ないしは既に年満退職の条件を満たしている社員で、自ら進んで退職しない場合は同社によって解雇される可能性がある。希望退職制度の詳細は今後発表され、操業に影響が出ないよう、4月より36カ月に渡って行なわれる予定である。同社は、予想退職者数を明らかにしていないが、労働組合は最大で約8,600人と予想している。目的は、プレサル油田開発等において投資を行なうためにコストを削減することである。

ミナス州で天然ガス・パイプラインの基本設計作成のための入札が実施される予定　 2014/1/28

入札を実施を検討しているのは、ミナス州政府、同州電力公社（CEMIG）、同州ガス公社（GASMIG。CEMIGの子会社）及びガスペトロ（ペトロブラスのガス部門）である。パイプラインはベッチン市（ベロ大都市圏）・ウベラバ市（ベロ市の西約480km）間の全長457kmに敷設される予定。天然ガスは、日量300万㎥（当館注：約1.9万バレルに相当）がベッチン市よりウベラバ市へ供給され、内120万㎥（当館注：約0.8万バレルに相当）が、2016年5月、ウベラバ市に完成する予定のペトロブラス・アンモニア生成工場に原料として供給される見通しである。予想投資額は18億レアル。

（３）鉱物資源

特になし。

（４）鉄鋼

特になし。

（５）その他

日産、1億4,000万レアル（当館注：総投資額26億レアルの一部）を投資し、リオ州レゼンジ市の自動車工場内にエンジン工場を建設　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　2014/1/7

これは、６日、当地を訪れていたカルロス・ゴーン日産社長兼最高経営責任者（CEO）が発表した。当初、エンジンは全てパラナ州とメキシコの工場で製造される予定であったが、レゼンジ市で現在日産が建設中の自動車工場内に工場が建設され、排気量1,600CCのエンジンが製造されることになった。工場は今年末までに完成する予定である。同社は、2013年に2%であったシェアを2016年に5%にまで引き上げる計画である。レゼンジ市の新工場は今年前半に操業を開始し、マーチとヴェルサが生産される予定である（注：リヴィーナとフロンティア（ピックアップ）は引き続きパラナ工場で生産される）。なお、ゴーン氏は、国内の電気自動車市場の今後については、政府による政治的な決断が欠如していることから、悲観的な見方を示した（現在、日産の電気自動車15台がタクシーとしてリオ市内で使用されている）。

ライト社の停電時間、限度を70%超える 2014/1/8

2013年1月～11月のリオ市の停電時間は平均15.36時間で、電力監督庁（ANEEL）が許容範囲と規定する年間最大停電時間の9.04時間を70%も上回った。同社によると、その理由は、猛暑による消費量の増大、盗電等であった。

ベロ大都市圏コンフィンス国際空港の滑走路拡張が遅延　　　　　　　　　　　　　　　　　　2014/1/22

ブラジル空港インフラ公社（INFRAERO）によると、今月から開始される予定であったコンフィンス国際空港の滑走路拡張第2期工事は来月後半からに延期される見込みである。理由は、工事で使用される機材のテストをするためであるが、工事の予定完了時期は3月のままで変わりないとのことである。なお、9月第4週に始まり、先月終わった滑走路拡張第1期工事では、滑走路が600m延長された。第2期工事では、安全対策として、滑走路のアスファルトの耐久性を改善するための工事が行なわれる。

2013年のリオ市の不動産販売額は前年比20%増の112億レアル 2014/1/23

この調査は不動産経営者協会（ADEMI）によるもの。なお、今年の不動産販売額も同等のペースで増加する見込みとのことである。なお、不動産発売件数は前年比9%増の21,247件であった。発売件数が最も増加した分野はホテル業界（同196%増の1,840件）であった。商業分野も同64%増の5,046件となったが、住宅分野は同9%減の14,361件であった。

今年のカーニバル期間にリオ州を訪れる予想観光客数は128万人 2014/1/23

これは観光省によるもの。これにより、11.8億レアルの経済効果が見込まれている。

国家航空局（ANAC）、リオ・ガレオン、ベロ・コンフィンス両国際空港の入札結果を承認

2014/1/25

これは、入札で敗れたコンソーシアムから何の異議も出なかったためであり、これによって両空港の落札コンソーシアムが確定した。そして、落札コンソーシアムは3月12日までに政府へ必要書類を提出し、同17日に契約書が調印される予定である。落札コンソーシアムはその後、改修工事（例えば、リオ空港の場合は冷房、トイレ等）に着手することになる。サッカー・ワールドカップ期間中、空港の運営責任者は公式にはまだブラジル空港インフラ公社（INFRAERO）であるが、落札コンソーシアムも運営に参加する予定である。

リオ・オリンピックの予算の半分以上は未確定　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　 2014/1/29

これは、オリンピック公共機関（APO）が発表した「オリンピック・パラリンピック実施計画」による。大会を実施するための工事計画52件の内、24件は入札を終えたものの、残り28件はまだ入札が行なわれていない。入札が既に行なわれた24件の予算の合計は56億レアルで、内41.8億レアルは民間資金、14.6億レアルは公的資金である。大会の総予算は、これに今後入札が行なわれる28件の予算の合計を合わせたものとなる。なお、「オリンピック・パラリンピック実施計画」は6カ月毎に更新され、APOのホームページにて公表される。但し、この中には、メトロの拡張、BRT（バス・ラピッド・トランジット）の建設等、都市交通に関する計画は含まれない。

リオ市のバス運賃は2.75レアルから3レアルへ値上がり 　　　　　　　　　　　　　 　　　 2014/1/30

これは市会計検査院が許可したもので、値上げは2月8日から行なわれる予定である。なお、市はバス・サービスの質を向上させる意向であり、そのための監査体制を強化する計画である。また、2016年末までに全てのバスにエアコンを設置することを決めた。リオ市のバスはコンセッション入札を落札した4社のコンソーシウムが地域別に運営している。